

第 11 期 松戸市緑推進委員会

第 6 回 委員会

1. 日時 令和 3 年 8 月 2 日 (月) 10 : 00 ~ 12 : 00

2. 場所 松戸市役所 大会議室 (新館 7 階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・平岡 考・小谷幸司・高橋 清・高橋盛男

石川静枝・藤田 隆・佐藤秀樹・狭間明美・江口亜維子

○松戸市

齋藤博紀 (街づくり部審議監)

布施 優 (公園緑地課課長)

白石義之 (21 世紀の森と広場管理事務所所長)

田辺久人 (松戸みどりと花の基金事務局長)

○兼事務局 (みどりと花の課)

岸 秀一 (課長)・三末容央 (専門監)・木村高德 (補佐)・岩田 昇 (主査)

○傍聴 なし

事務局より本委員会の成立について、委員 15 人中 11 名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

1 議事

1) 議事要録の確認について

2) 緑の基本計画の策定について

3) みどりのサロン部会について

4) その他

1 連絡事項等

1 閉会

**会長**

緊急事態宣言が発出され、今日から 8 月 31 日までが宣言の期間となった。開催にあたっては感染予防のためのスペース確保と行政側の出席者の減員、窓の開放など配慮を行っている。開催には対面、WEB、署名評決などの方法を選択して行っている自治体もあり、今回は準備の時間が無く対面になったが、今後の開催方法の検討をお願いしたい。

## 議事 1) 議事要録の確認について

会長

事前配布した議事要録に意見・指摘事項はないか。なければこれを以て議事要録としてよいか。

— 了承 —

## 議事 2) 基本計画の策定について

事務局

先ずお手元の資料を確認させていただきます。

資料 1 として、「緑推進委員会関連スケジュール」

資料 2 として、「第 11 期松戸市緑推進委員会みどりのサロン部会議事録」

資料 3 として、「松戸みどりのプラットフォームの検討経過」

資料 4 として「第 2 回みどりの市民フォーラムプログラム (案)」

以上が本日の配付資料です。

過不足がございましたらおっしゃってください。

事務局

それでは、議案 2) の緑の基本計画の策定についてご説明いたします。

今回、緑の基本計画の策定について議題とさせていただきましたが、前回の委員会においてもお話しさせていただいたとおり、その内容についての審議は一先ず終えておりますので、基本計画につきましても、スケジュール表を参考に状況の報告をさせていただきます。

緑推進委員会で議論いただいている基本計画につきましても、表の上段に「基本計画案調整」と書いてあるとおり、現在、原案として庁内の関係各課に照会をかけ、意見をいただき、その意見に基づき修正をかけている状況でございます。

関係課からいただいている意見につきましても、積極的なご意見もごございますが、どうしても直接の担当課とは温度差が出てきてまいりますので、ネガティブなご意見もごございます。今後、記載内容について最終調整を行い、10 月中にはパブリックコメントに出す素案の状態にする予定です。

これまでも申し上げているとおり、緑の基本計画は、同じタイミングで策定される都市計画マスタープランの策定スケジュールと歩調を合わせて進めていかなければならず、本日提示させていただいているスケジュールは、それに基づき修正したものでございます。パブリックコメントについては議会説明が必要となりますので、12 月の議会説明から逆算して、その前の 11 月からの緑推進委員会が、委員の皆さまに計画の案をお示しできるタイミングになると思います。その後、12 月下旬から 1 月中旬にかけてパブリックコメントを実施し、1 月下旬頃の推進委員会で、パブコメの内容を委員会で報告し、最終調整のためのご意見を伺うこととなります。

その後、議会等への報告を経て、3 月末の策定を予定しております。

基本計画についての説明は以上となります。

今後の委員会については、本日 8 月 2 日の開催の次は 10 月上旬に第 7 回を予定していましたが、基本計画作業スケジュールの都合により、今回は 11 月とし、その前の 10 月末までには「緑の基本計画」の案を委員の皆さまに郵送させていただきますので、ご確認をいただいた上で委員会でご意見をいただきたいと思っております。

会長

現在は庁内で調整中ということだが、ポジティブあるいはネガティブな意見とはどのようなものか。

**事務局**

今回の「緑の基本計画」には、一概に「みどり」と言いましても「環境」や「スポーツ」など幅広いジャンルにわたって可能性やビジョンを書き込んでおり、それぞれの担当課にとってはそれが実現するかのように書かれていることに対し反応があったものと思われます。ただ、こちらとしては、基本計画はあくまでも未来図であり、担当課に何か課するという事ではないということをお説明しております。

**会長**

今回はかなり踏み込んで記載しているので、そうした反応は納得できる。

10月中には委員に調整後の「緑の基本計画」(案)が郵送されるということなので、事前に読み込んでいただき、次回委員会で意見や気付きを伺いたい。

**議事3) みどりのサロン部会**

**事務局**

それでは、議事3) みどりのサロン部会についてです。

これまで、みどりのサロン部会での議論の進捗に合わせて、委員会においてもご意見を頂戴してまいりましたが、前回の委員会において、会長に今後の1年または2年、3年を目処に行動していくにあたっての重要事項を4つにまとめていただきました。

1つ目、ターゲット、コンテンツを絞った情報収集・発信を基盤としたプロジェクトであること

2つ目に、イノベーションを起こすプロジェクトであること

3つ目に、実際に行動すること

4つ目に、行動・成果を「見える化」すること 以上の4つです。

委員会の後、みどりのサロン部会では、4つの事項を基に5/27、6/30、7/28の3回の部会で具体的なプロジェクトについて議論を重ねました。こちらについてはサロン部会の議事録でまとめてございます。

それではサロン部会の議事についての説明をお願いしたいと思います。

**委員**

残念ながら知名度が低いと言わざるを得ない「松戸のみどり」に関わる活発な活動を一般の人にもっと知ってほしいことや、みどりの価値や活動が「緑の基本計画」にある「みどりと暮らす豊かさ」につながる仕組みづくりが必要だということがサロン部会立ち上げる背景となっている。今後の活動の確認として「キーパーソンを交えた学習会」や、コロナで中断している「視察勉強会」、「第2回フォーラム」の実施、また「松戸のみどり」の情報発信の試行をしたい。

委員会の任期は来年6月までと一年を切っており、「第2回みどりのフォーラム」を次のステップとして、「みどりに関わる人」「それ以外の人」の出会いや連携の場を実現することを目標としてきた。コロナ禍の状況下でどのように行い、誰に向けたものにするのかを勉強をしていくことも試行の意味があり、開催に向けて進んでいきたい。

**会長**

みどりのプラットフォームのイメージ図は、将来の進め方のイメージとして記載しており、みどりのプラットフォームに関わる何れかの主体がプロジェクトを展開し、計画を実現、評価をしてフィードバックしていくもの。これに対してサロン部会では、これを回すための具体的なプログラム・事業の位置づけで考えているが、残り1年弱の期間ではあるものの、「キーパーソンを交えた学習会」「視察勉強会」「第2回フォーラム」「松戸のみどりの情報発信」の4つの活動が提案された。このうちコロナ禍のため視察勉強会は実施できなかったが、コロナ感染症の状況を見

ながらになるが、第 2 回松戸みどりのフォーラムの開催を検討している。

**委員**

プラットフォームのイメージ図については、表現としてこれでいいのか疑問視する意見がある。個人的には「みどりのプラットフォーム」にはいろいろな主体が出入りし、活動やプロジェクトを推進していく場としての機能、「松戸みどりのフォーラム・ネット」はそのプロジェクトの推進や成果の検証を行うコーディネート機能であり、緑の枠で一つに囲む表現は違うと考える。また、緑推進委員会と行政、(公財)松戸みどりと花の基金は場全体を下支えする形になっているが、場の支援と捉えていいのかという疑問を持った。例えば柏市の「カシニワ制度」のように、土地の所有者、場を提供する人、活動の場を提供する人と活動をする主体が協定を結びそのプロジェクト単位への支援する仕組みとなっていて、3つの台形は下向きになることとなり図の再考が必要となる。また、既に試行しているものはここに書き込んでもいいのではないか。

**会長**

テーマを絞って、2点について検討をしたい。

- ・第 2 回松戸みどりのフォーラムの検討
- ・みどりのプラットフォームのイメージ図

**委員**

第 2 回みどりの市民フォーラムのプログラム(案)を説明する。

目的はプラットフォーム構築の可能性を探ること。みどりの基本計画を PR すること。参加団体にとっては他団体との出会いや課題の共有、活動のヒントや視野を広げること。活動が市民の目に触れる機会とする。開催場所を屋外に設定しているので、開催日時は寒くなる前の 10 月 30 日(土)か 31 日(日)のどちらか。予備日は 11 月 6 日又は 7 日のどちらか。時間は午後 1 時から 2 時間半程度。想定参加団体は第 1 回目の団体に加え緑推進委員の推薦団体で、メインの「みどり関係」とみどりを扱う「子育て関係」としている。21 世紀の森と広場で開催し、公園に遊びに来ていた人がフォーラムを覗いて「こんなことを松戸でやっている」との認識や話合いへ参加する雰囲気をつくりたい。

プログラム(案)は(1)オープニング⇒(2)各団体の PR(約 1 分間にいつ・どこで、何をやっているか)⇒(3)「囲いやまの森の活動」の事例で、団体同士のつながりやコラボによる活動の展開や効果を知る⇒(4)ワークショップのワークにより他団体同士で一步踏み込んだ交流(参加団体によりテーマは検討する)⇒(5)自由な交流会⇒(6)クロージングとなる。

当日の配布資料として(1)みどりのフォーラムの主旨、(2)みどりの基本計画にある市民に関係のある「みどりのあるライフスタイル」の PR、(3)参加団体一覧を配布し、後日の交流が可能な情報共有のツールになるようにする。

**会長**

これはプラットフォームの最初のステップになるが、意見はないか。

**委員**

都合でサロン部会に出席していないが、フォーラムは「子育て関係」も対象のようだが、当日は親子で参加できるプログラムなのか。

**委員**

基本的には「みどり」と「子育て」の団体同士の話し合いで、ふらっと公園に遊びに来ていた親子が見たり参加することができる。

**委員**

将来的に拡がりを考えているのであれば、親子で参加できるようなプログラムを取り入れては

どうか。

**委員**

市民向けのプログラムを入れる意見も出されたが、まずは「みどり」と「子育て」のマッチングをして土台づくりをしていくこととした。

**委員**

現在「里やま」や「公園」の利用者は、保育園や低学年の小学生、子育て支援団体が多い。松戸市の子育て支援団体は子育てをしている母親への支援が多く、そこでのネットワークも強い。よって親を対象とした拡がりをおねらうことが、より効果的という考え方による。

**会長**

第 1 回目のフォーラムをストックとして捉え、それはどう生かされるのか。

**委員**

前回のフォーラムでは、みどり関連以外子どもの居場所づくりやネイチャーゲームをしている団体など森を使っていない団体が 9 団体参加し評価が高かった。

**会長**

今回は前回以上に子育ての領域を拓けるといふことと理解した。

プログラムに「囲いやまの森の活動」のコラボレーションの事例を基にしたワークショップを加えたことの主旨についてどうか。

**委員**

これまでのような報告会だけでなく、異なる活動をしている人が手を組むコラボレーションの疑似体験も加えたい。団体が持っている多数のパネルを持ち寄り、ポスターセッション形式で行えば屋外でも劇場性ができ、千葉大学園芸学部の戸定祭で行ったように、通りすがりの人も参加できる。進行は参加団体を中心になってゲーム形式で行い、コラボレーションでプロジェクトをつくる疑似体験の仕掛けを考えている。

**会長**

基本計画にある「みどりのあるライフスタイル」との関連づけはどうなっているのか。

**委員**

「みどりのあるライフスタイル」を想像しながら、中心となる「みどりの市民力」を担う人がプラットフォームの一員だということをお認識してもらえればよい。前回は 5 分間のプレゼンテーションができたが、今回はワークショップを行うことで 1 分間程度になり活動紹介の時間が短縮されることから、後のアクションツールとして参考資料の配付物をつくることになった。

**委員**

「みどりの市民フォーラム」と名を打っているのだから、対象が一般市民のように感じるが、フォーラムはみどり関係者と子育て関係者のマッチングの機会を想定して、一般市民は傍聴するだけというイメージか。

**委員**

次のステップでは、ここで出会った人たちによる市民向けのプログラムを企画したい。

**委員**

このようなフォーラムは一過性のものが多いが、前回のフォーラムの教訓や反省点がどう生かされているかは、今回から参加した委員としては分からない。今後 3、4 回目を開催するならば今後のストーリーが明確になるとやり易いと思う。例えば 5 回までをパッケージとしそこまでどこまで達成させるかのストーリーがあると先行きを見据えたものになると思う。

**会長**

今回は子ども分野とのコラボレーションを主軸としているが、みどりの分野は、健康福祉分野、生き物の分野などの様々なテーマ性があり、「みどりのあるライフスタイル」に照らし合わせると展開の方向はいろいろ考えられるが、サロン部会で検討するとして何かアイデアはないか。

**委員**

みどりの市民フォーラムのプログラム（案）で、今後マッチアップやコラボを考えるのであれば団体の PR タイムには「強み・弱み・やりたいこと」のコメントを出せばその後に繋がられる。

**委員**

テーマのひとつとして、「緑の基本計画」の重要なキーワード「グリーンインフラ」を取り込んでもらったが、他の自治体においても増えている。しかし「グリーンインフラ」を市民レベルで実質化・実体化していくところまで踏み込んでいる計画はほとんどなく、「難しい」「よく解らない」ということで、多くは「存在することに価値がある」に止まり、市民目線での重要性や楽しめるものとしての価値は理解されていない。そこでサロン部会の取り組みとしてグリーンインフラの意義を理解し、個人の庭を手軽にレインガーデンにできることを知ってもらい、あるいはそれをサポートしてはどうか。今、千葉大学のレインガーデンは研究室の枠を超えた「雨庭組」を組織し管理活動をしているが、そのパネルを展示し企業や市民の庭で実現するサポートにつなげたい。このようなグリーンインフラをハード面から進めていく活動をサロン部会の活動でも関連づけできないか検討してほしい。

**委員**

そういう取り組みは大歓迎で、現在みどり関係の多くのイベントを秋に開催を予定しているが、前回のフォーラムでは学生の存在が大きかったことから、学生が動きやすい 10 月末から 11 月はじめに開催したい。内容を豊かにする取り組みとして歓迎する。

**会長**

今回のフォーラムは多分野との連携をベースとして、これまで以上に子育て団体との関係を広げていくことを目的としている。

例えば、「グリーンインフラ」の重要性は分かっているが、まずは社会実装やライフスタイルの中に取り込む方法として、講師を招いた学習会や視察勉強会を抱き合わせで行うなど、目的ごとに市民活動との連携をベースにして実際のプロジェクトを行い、場面を変えながら先に進める。学祭が開かれるなら「雨庭組」に協力していく方法。また、SDGs にも目を向ける必要がある。他市ではみどりの施策に SDGs のゴールのマークを付けた「緑の基本計画」もある。先を見れば SDGs と低炭素は今後のテーマになると考えられる。

**委員**

私のイメージでは、市民フォーラムのコアなターゲットは「みどり」愛好者で、一般市民の取り込みは次のフェーズになる。先の意見のように、今後の 5 回・10 回分のシナリオ等（ざっくりとしたフェーズ）は考える必要があるだろう。市民フォーラムは今後しばらくプラットフォームを動かすための基盤づくりの位置づけで動かしていけばよいと思う。子育て団体がターゲットなら、視察勉強会を一般市民向けの内容に変えて行う方法もある。「キーパーソンを交えた学習会」「視察勉強会」「第 2 回フォーラム」「松戸のみどりの情報発信」をうまく連動させるように関係性を大事にして進めれば全体像が見えてくる。コロナ禍でも例えば意識の高い人ならばこのプログラムならば開催をオンラインで行うことも可能であると思うが、一般市民向けの視察勉強会をオンラインで行うならば、薬師池公園等を 1 人が取材・レポートする形での配信をリアルタイムで市民に見てもらいたいのはそんなに難しくないだろう。

**委員**

これまでサロン部会では一般の街づくりや中間支援のキーパーソンが講師となって話をしてきたが、講師の得意分野次第で多岐にわたる話が聞け、オープンで継続しての開催はそれほど困難ではない。これまでに 3 回行ったがメディアとして使え、部会の成果と言える。

**会長**

コロナ禍によりできなかった町田市への視察勉強会はまだ実施できていないが、「キーパーソンを交えた学習会」「第 2 回フォーラム」なども含め継続して検討を行い、次期委員会に受け渡し継続することになる。

**委員**

第 2 回みどりの市民フォーラムプログラムの検討会で、「みどりのプラットフォーム」は理解されているのかという話が出た。これは先の「グリーンインフラ」とも共通していると思うが。先ず参加者がする疑似体験こそが「プラットフォーム」だと分かってもらい、そういった会を重ねていくうちにイメージができていく。例えば市民ネットワークでも体験の有無で理解が分かれることがある。新しい概念なのでいろいろな手段が必要となる。

**委員**

話を矮小化するかもしれないが、「プラットフォーム」について、先日ラジオ番組でコシノジュンコと立川直樹（ビートルズの招聘に関わった）の話で、私の世代で言えば、昭和 50～60 年代に原宿セントラルアパートを中心にコシノジュンコや高田健三のようなクリエイターたちが集まっていて世界に発信をしていた。また漫画であれば「トキワ荘」であり、音楽で言えば「ポプコン」、新宿の「風月堂」が思想家たちを育てたと言われ、それがあの時代の「プラットフォーム」と理解でき、「みどりのプラットフォーム」もそれに近い気がする。また、「フォーラム」は夏のフジロックフェスティバルや苗場ロックフェスティバルになる。そんなクリエイターの集まりである「プラットフォーム」であればいいと思う。また更に、新宿のゴールデン街も「プラットフォーム」に近く、世界に発信をしていた人がいたが、どろどろとした汚いイメージときれいなイメージで差異こそあるが、そのような理解だと腑に落ちる。

**委員**

前会長当時から「プラットフォーム」の話は出ていたが、今のイメージ図では組織化されるものなのかわからず、誰でも出入りが自由であれば、極端に言えば居なくなることもあり得るということになりよくわからない。前述の「トキワ荘」や原宿セントラルアパートには求心力があったが、行政の声掛けでつくられたものに求心力ができるものなのか、成り立つものなのか分からない。松戸市には千葉大学があり、ここにいる先生方をはじめとする専門のリーダーの方たちの存在があり素晴らしい今があるが、協議会のような枠をつくらない「プラットフォーム」がどうやって存続できるのかイメージできない。

**会長**

これははっきり言って誰もわからない。協議会のような規約やコンセプトを持った組織をつかって展開するやり方も、そうでないやり方もある。私のイメージは「みどりのプラットフォーム」は出入り自由でいろいろな人たちとつながっていきましょうというイメージに過ぎない。外枠が「みどり〇〇協議会」のような組織化は合わないと思う。プロジェクトありきで実施し、必要に応じ組織ができる、「ニワトリが先…」の話になる。協議会になると事務局の役所の声掛けで集まった組織になってしまうのだと思う。プロジェクトを生み出すことで仲間ができ、それが網の目のようにゆるく繋がっていくことが「プラットフォーム」のイメージ。組織化はイメージしていない。ただし、このサイクルをつくり、プロジェクト検証を行い、行政の施策に反映できる

ものは反映していかななくてはならない。仕組みを回していくコアなメンバーはある程度必要だとは考えており、「松戸みどりのフォーラム・ネット」がそれを担うところだと思う。担う人を育てることになるか、あるいは千葉大学の機能が一部入ることもあり得る。イメージ図の「松戸みどりと花の基金」「行政」「緑推進委員会」は中心に書いてもいいが、矢印は全方向に向け支援が欲しい。実際にプロジェクトを展開するには社会実験的なものが出てくることもあり、計画の実現に対して行政等の支援が欲しい。里やまボランティア入門講座も試行からはじまり、今では 15 回以上継続し行われ大きな柱となっているが、そんな展開を考えていく。イメージ図がわかりにくくはあるが、田代前会長の時代からこのニュアンスで、NPO 化なども議論され今日に至っており、基本はプロジェクトを生み出し新しいことをやることで集まりができるということ。それを回していく調査・研究、企画・立案のメンバーはボランティアではできない。

#### 委員

「プラットフォーム」の事例として、震災後被災地の若い人達により Facebook で呼びかけグループがつけられたが、はじめに大雑把な参加の枠組みが公開され、その中にプロジェクトグループができ、そこで半公開の設定で作業グループができた。もう一つはそれを下支えする運営グループが非公開グループとしてあり、プロジェクトを動かしていく人と支えるグループが徐々に構成されていく。そこにスキルが足りなければ他から呼び込むことも可能で、少しずつ充実させていく形がある。それを組織化することは意味がなく、プロジェクト単位であるものが別のグループと組み、新たな「プラットフォーム」が形成されていく方が自然な形となる。

#### 委員

今の話でわかった気がする。みどりを守りたいという一つの大前提で集まったメンバーが共通の目的を持つことが大前提だと思う。しかし、そのような曖昧なことを役所の文書に書き込むことが馴染むのかとも思う。

#### 事務局

「緑の基本計画」の中に、イメージを書き込むことは問題ない。説明を求められると苦しくなる部分は出てくるかもしれないが、行政がプロジェクトベースでみどりの活動を支援していくことは今後も必要であり、行政内部でも伝えられるようなイメージを書き込む必要がある。イメージ図は修正する。

#### 会長

なかなか難しいところではあるが、緑推進委員会や、(公財)松戸みどりと花の基金の関わり方など考えなければならないことや不確定なこともあるが、目標図を定めることはできる。頂上への登山ルートで到達までのアプローチの方法の変更があっても、こういうイメージのものを目指すという図になっていればいい。みどりをやりたい人によって起こした新しいプロジェクトをチェックし、施策にフィードバックし後の展開に繋げる。スキルのある人が中心になって考え、それを 20 年のうちに実現するイメージ。その道筋の中で緑推進委員会や行政が何をするかは書きにくい、登山口に入ったところを今サロン部会がやっている状況となっている。共有しているイメージが「緑の基本計画」に書かれていないと行政側は動きづらくなる。

#### 委員

他の産業で「プラットフォーム」に関わっている立場として意見すると、プロジェクトベースでやるならば、「松戸みどりのフォーラム・ネット」は情報収集や発信、資金調達などの事務局的な機能を担い動かすところとして重要であり、将来的には NPO 法人や株式会社になれば面白い。「プラットフォーム」側に参加する各種団体にはそれぞれ目的があり、何かしらのメリットを求めているので、それが無ければ参加はなく、メリットとなるプロジェクトを提案していく機能が

重要となっていく。イメージ図の「松戸みどりのフォーラム・ネット」と「みどりのプラットフォーム」は別枠にした方がわかりやすいのではないか。

**会長**

具体的な修正提案であったが、「松戸みどりのフォーラム・ネット」の機能は重要となる。まだ議論が必要かもしれない。

第 2 回みどりの市民フォーラムの企画は引き続きサロン部会で進めていくことでよいか。

— 了承 —

**事務局**

フォーラムの開催日時は 10 月 30 日（土）か 31 日（日）のどちらかで行うこととし、屋外での開催ということで雨を考慮し、予備日を翌週 11 月 6 日（土）か 7 日（日）に設けた。

**会長**

千葉大学の雨庭組や回廊グループの学生が参加できれば元気がもらえる。ファシリテーターの選出など詳細の詰めは、サロン部会と事務局でお願いします。

#### 議事 4) その他

**委員**

5 月開催予定だったオープンフォレストは延期になり、10 月 16 日～25 日に開催をすることになった。市内の樹林地 14 か所をオープンにして市民に来て遊んでもらうイベントで、開催期間は各森による。開催時間は 10 時から 15 時くらいで今後各森の予定が提示される。

**委員**

開催は決定されているのか。

**事務局**

コロナ感染症の状況を見ながらという前置きはつくが、秋は様々な催しが予定されている。

- ・オープンフォレスト（10 月 16 日～25 日）
- ・里やまアワード講演会（9 月 25 日 市民劇場）
- ・里やまボランティア入門講座（9 月 25 日～11 月 11 日）

オープンフォレストと里山アワードについては、詳細は未定となっている。両イベントとも新型コロナウイルスの対策を講じた上での実施となる。里山アワードに出席を希望する委員は事前に事務局へ連絡をいただきたい。

**会長**

「里山アワード」を「里山アワード大賞受賞記念講演シンポジウム」に書き換える。昨年千葉県主催で開催されたちば里山アワード 1 回目に大賞を受賞した記念となる。オープンフォレストは実行委員会を開き詳細を決める。緑推進委員会はオープンフォレストの後援団体となっているので是非行ってほしい。コロナ禍中であり感染対策等考慮しなければならないが、例年は 10 日間で 2,000～2,500 人位が参加している。

### 3 連絡事項

**あさがお展の開催**

**松戸みどりと花の基金**

開催：8 月 5 日～9 日 於：金ヶ作育苗圃

コロナ禍中ではあるが、変化朝顔や大輪朝顔約 100 種類の展示を屋外で開催する。昨年は 5 日間

に約 300 人が来園した。8 月 8 日に賀来宏和氏の講演会を入場者枠 20 名単位で開催を予定したが既に申込者はいっぱいになっている。是非来園いただきたい。

#### 里やまボランティア入門講座

##### **事務局**

里やまボランティア入門講座は緑推進委員会の発案で平成 15 年から開催している。各年度の受講生はそれぞれ活動団体を立ち上げ市内の森で活動をはじめ、今のように活動団体も増えオープンフォレストが開催できるほどになっている。

日程は 9 月 25 日から 11 月 11 日となっており、1 日目は「里山アワード大賞受賞記念講演シンポジウム」も見ていただく。10 月 15 日～11 月 10 日の期間は各々の受講者で森に行って体験をしてもらう。最終日は松戸の里やま活動の原点と言える「関さんの森」を案内する。

申込み定員は 20 人で、はがき、メール、QR コードから申し込める。募集開始は 9 月 1 日から。

##### **会長**

シンポジウムの基調講演は私と村松亜希子氏（NPO 法人生態教育センター理事で保育ナチュラリスト）で行うことになっている。二人以外に八柱幼稚園の園長と当委員会委員、行政の方が壇上で「つながりよ！森と地域と子どもたち」のテーマでパネルディスカッションを行う。

入門講座の 10 月 15 日から 11 月 10 日は各自が森を見に行く設定だが、オープンフォレストにも参加するのだろう。

里山アワードのシンポジウムが日程の冒頭となるので「オープンフォレスト」の紹介や配付物、第 2 回みどりの市民フォーラムの告知をするチャンスとしたい。

次回の委員会の開催日程はより多くの出席が可能となるよう調整をしたい。

##### **委員**

今後サロン部会はフォーラムの準備に特化され、通常行ってきた議論ができなくなると予想される。開催日程は緑推進委員に通知するので参加してほしい。

##### **事務局**

次回開催は 11 月上旬の予定で、詳細は後日連絡をします。

##### **会長**

以上をもって本日の委員会を終了する。